

## 【夢をかなえて行かれる神様】

聖書箇所: 第一歴代誌 17:1-15 / 暗唱聖句: 創世記28章15節

説教者: 鄭南哲牧師

愛する信仰の家族のみなさん! 一週間も主の平安で守られましたか。

みなさん! 歳月が流れていっても私たちには一番よく知らない知識が一つありますが、それはなにかご存知ですか。それは自分を知る知識ではないかと思えます。ある詩人の言葉どおり、私という存在は自分にはいつも最大な秘密のようです。一番よく知らない事は自分ではありませんか。しかし反面、自分を知れば知るほど苦しくなるのである人々は自分と向き合う事を拒む場合もあります。ある時は自分の罪と弱さと足りなさにぶつかってつらい時もあります。

しかし、自分がどんな存在なのかを正しく知り、正しく自分をさぐり、自分の人生を知って行くためには、キリスト教では人に注目し、集中するのではなく、その人を造られた神様と向き合って、正しい関係を結び、神様の御言葉をを知ることによると教えて下さっています。フランスの中世期の宗教改革者であったジョンカルビン先生はこのように言いました。

**“神様をしる知識こそ人間を知る知識の源であり、そして自分を完全に知る知識は神様を完全にしる時可能である”。**

今日は本文の御言葉を通して自分はだれなのか、今どのように生きているのか、正しく生きているのかを点検することができる時間となってほしいなと思えます。すでにこの社会の中でも自分がどんな存在であるかを知るために知能の検査とか、適性検査とか、人格検査など様々なチェックできるものがあるでしょう。しかしこれよりもっと大切なのは霊的な状態について自分はどんな者であって、どんな状態であるのかについてはなかなか少ないでしょう。簡単に私たちはこのような質問を自分にすることで大体把握できるようになると思えます。

**まず第一番目の質問です。最近自分のそばにおいて読んでいる本はどんな本なのかを自分に聞く事です。**

みなさんは最近どんな本を読んでいますか。ある方は一日ずっと新聞ばかり読んだり、いろんな雑誌ばかり読んだりする方もいます。ごとしょうぎが大好きで朝めざめたらそれに関連の本をすぐさがします。みなさんは今年どんな本を一番ちかくにおいてよく読んで来ているのでしょうか。

聖書は詩篇1篇で幸いな人についてこのように語ります。“**主の教えを喜びとする者**”だと。つまり**神様の御言葉を昼も夜も口ずさむ人が幸いな人**だと言っています。

神様の聖書をいつも親しんでいたアメリカの16代の大統領であるアブラハムリンカンの跡形は彼のちいさいころ住んでいた丸木のお家に行けばよくわかるみたいです。何度も何度も線を引きながら読んだ跡のため聖書の箇所が見えないほど真っ黒になっている彼の聖書がそこに残っているのだそうです。

**聖書が汚(きたない)人は心がきれいで、聖書がきれいな人は心がきたないかもしれない**とある先生から聞いた覚えがあります。この話を聞いたある信徒さんが自分の聖書もきたないのといわれたので、どのくらい読んだのかそのわけを聞いたら、ほとんど読まなくてほこりだらけになってしまっただけと笑いながら聞いた覚えがあります。みなさんの聖書はどうでしょうか。今年も後約4ヶ月残っている中、みなさんの聖書も一度、全部めくってみてください。みなさんの聖書は今年のみなさんの霊的生活がどうだったのかを正直に見せてくれると思えます。これがみなさんの聖書は今みなさんの信仰と霊的状态をチェックする一番目の基準になる物だと信じます。(例え、CSの子どもたちも御言葉を暗唱しつつ、御言葉から離れないようにしようとしています。大人のみなさんも覚えることまではできなくても、ぜひこれから残りの今年御言葉をいつもそばにおいて読んで行きませんか。)

**二番目は、自分の霊的状态をさぐる質問は最近、だれにも邪魔(じゃま)されない一人の時に自分の頭に思い浮かぶ考えは何かの事です。**みなさんは一人のときどんなことを考えますか。実際それが自分自身の霊的実態です。それは神様と自分しかわからない事です。みなさんは最近ときどんな考えがたくさんながれているのでしょうか。

サタンはよく我々の考えの中で働いていることを忘れないで下さい。

例え、ヨハネの福音書13章1節によりますと、「夕食の間のことであった悪魔はすでにシモンの子イスカリオテユダの心

に、イエスを売ろうとする思いを入れていたが、」

ローマ人への手紙 8 章5-7節には、「肉に従って者は肉的なことをもっぱら考えますが、御霊に従うものは御霊に属することをひたすら考えます。6 肉の思いは死であり、御霊による思いは、命と平安です。というのは、肉の思いは神に対して反抗するものだからです。それは神の律法に服従しません。いや、服従できないのです。」

愛するみなさん、一日中一人の時、とても淫乱な考え、とても汚れた考え、とても否定的な考えで悩まされたり、自己憐憫に陥られるような考え、すべてのことに大げさに考え込んでしまってそんな考えが自分自身を苦しめられた時はありませんか。しかし、サタンだけではなく、聖霊様も我々の思いの中でも働いておられることを忘れてはいけません。

ヨハネの福音書 14 章 26 節を見て見ましょう。

“しかし、助け主、すなわち、父が私の名によって乙かわしになる聖霊は、あなた方にすべてのことを教え、また、私があなた方に話したすべてのことを思い起こさせて下さいます。”

ヘブル人への手紙8章 10 節

“それからの日の後(のち)、私が、イスラエルの家とむすぶ契約は、これであると、主が言われる。私は、私の律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書き付ける。私は彼らの神となり、彼らは私の民となる。”

ですから、箴言 4 章 23 節には、いつも大切な我々の心と考えを守るように教えて下さっています。“力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。命の泉はこれからわく。”

しかし、愛するみなさん！私たちの心の中にはこのような神様の考え、サタンの考え、自分勝手な考えがあるのに、いったいどうやって明確に命の考え、神様の考えをわきまえることができるのでしょうか。

ヘブル人への手紙 4 章 12 節を読んで見ましょう。

「神のことばは生きていて、力があり、両刃のつるぎよりも、鋭(すど)く、たましいと霊、間接とこつずいのわかれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。」

つまり、主の御言葉で考える(これが黙想すること)ことにより一主の考えがなにか明確に区別されるようにしてくださいませ。なので、ダビデは日々一日中主の御言葉が自分の思いとなるように意識的に努力したことがわかります。

詩篇 119 篇 97 節:「どんなにか私は、あなたのみおしえを愛していることでしょうか。これが一日中、私の思いとなっています。」 99 節「私は私のすべての師よりも悟りがあります。それはあなたのさとしが私の思いだからです。」

113 節「私は二心の者どもを憎みます。しかし、あなたのみおしえを愛します。」

3番目は、最近自分はどんな部類の人々とよく時間を過ごし、接しているのかです。

今日の神の人、ダビデが素晴らしい信仰の人物と王様になったのは彼の回りにすばらしい信仰の友たちがいつもいたからでした。。彼の若いころはヨナタンという真実な友がいました。歴史上多くの人々は友情の代名詞としてダビデとヨナタンを言います。彼らは自分の命よりもさきに相手を考える友情をもっていました。ダビデはヨナタンの死後ナタンという預言者といいい交わりを持ちました。ナタンはダビデが神様の御前で正しく生きようと励ましと助言をおしませずにしてあげた人でした。

彼らの関係がどれだけ信仰にあって深かったのか私たちは聖書を通してたやすくわかることができます。今日の本文ではダビデ王は神様の聖殿をつくることに対して神様からの no という御心を伝えた人もナタン預言者でした。ナタンは友としては言いづらかったでしょうが、神の御心をわかるように忠告し、そのことをすなおに受け入れる事ができるほどの信仰の友情関係ができたことがわかります。

後になってダビデが罪を犯したときもナタンから王であるダビデに彼の罪をきびしく叱られた時もダビデはその忠告にたいして深く受け止め泣きながら悔い改める場面が聖書にも記されています。そしてダビデは自分の子供の中でもナタンという名前をつけるほど信仰の友情は深いでした。最近みなさんは信仰の友、信仰の家族とよく時間をとって交わっていますか。いつも信仰を生かし、霊的に守られ、支えられるためには信仰の人々との交わりが大切であることをかかろく思わないで下さい。最近、いつも一人だけですか。この世の人々とのかかわりばかりですか。信仰の人々と共に交わり、祈り、かかわる時間を定期的に取りするのは霊的な賢い人の姿です。

4番目の質問はこれです。みなさんの人生に余裕ができたなら、その余裕をどこに使いたいですか。

## 時間の余裕、物質の余裕、才能の余裕があったらそれで何をしたいでしょうか。

愛するみなさん! まことに信仰もっている人、霊的な人はただ自分だけのために生きる者ではありません。霊的な人は神様中心、イエスキリスト中心、御言葉中心、教会中心、他人中心に変わることです。

ですから、自分にその力と余裕がある時は変わらないで、さらによい心をもって神様が喜ばれることのため、他の人のため仕えることができます。だれがそのような生き方で生きましたか。今日の本文のダビデがそうでした。みなさんも御存知のようにダビデ王の名前は旧約聖書だけで 800 回、新約聖書にも 60 回ぐらい言及されているほど、信仰の体表的な人物です。しかし、彼は王になる以前は単なる羊飼いにすぎませんでした。

昔、イスラエルでは3つのいやしい職業があって、横になってお金を稼いだ娼婦(しょうふ)、人をだましてお金を稼いでいた収税人、そして羊飼いまけものによって生活をしていたためいやしい仕事でした。ダビデは 8 人兄弟の中で一番最後に牧童(ぼくどう)、つまり、幼いときから羊飼いでした。しかし、その生活の余裕がない時も、将来統一王国を立て上げイスラエルの王となって立場的に、物質的に、権力の面においてもすべて余裕を持つことができるようになった時も、相変わらず、彼は神様のためにそれらを用いようとしていました。彼は王になった時、一番最初にやったことも、自分のためではなく、まず第一にやったことは神の契約の箱を探す事でした。ダビデは王になってから神様の契約の箱に対する関心をすてないでついに神の契約の箱をみつけてエルサレムに戻しました。その日ダビデはどれだけ嬉しかったのか力のかぎり踊りながら自分が裸になるのすらきづかないほどでした。そして神の契約の箱が天幕の中にあることをみながら心をいたみ、今日の本文では神のため聖殿をつくらうとしました。彼は羊飼いの時も王になった時も神様のまえで変わらず同じ心を持っていたのです。その姿は人間としてそう簡単なやりやすいことではないでしょう。

旧約の士師記でのイスラエルの民や列王記の多くのイスラエルの王たちをみると大変なときはいつも神様にさげび、求めますが、神様のあわれみによって回復され必要なものが満たされるとまた神様を忘れ、自分の好きなほうだい罪を犯している姿を見ることができます。

愛するみなさん! そういうわけで私たちも実際、何か、足りない時、持たなかった時は神様に与えられるのであれば神様のために何でもしますと言います。どんな人でもたすけたがります。しかし実際、必要な物が満たされた時、それを生かし、神様のためさらに使えようとせず、もっと自分のためほしがる欲をとらわれやすい我々ではないでしょうか。

ダビデはこのように霊的な人物でした。

そんなダビデだったので、彼は王になってから、王としてやるべきことがたくさんあるはずだったと思いますが、それにもかかわらず、羊飼いのときいつも神様を考え、歌ったように王になってからも神様を考え、神様のために神の宮(聖殿)をどうやって建てるのかの夢をいただいたのです。

## [神様のため夢を抱いていたダビデ王]

今日の本文によりますと、ダビデは神様のために聖殿を立ちたいというすばらしい信仰の夢をもっていて、神様も喜んで下さったのにもかかわらず、神様はダビデのそのすばらしい夢を拒みました。そのため、ダビデの時には神様が赦して下さらなかったのも、神様の宮を結局、建てませんでした、その代わり神様はかわりにダビデの家を建ててくださいます(10 節)。

つまり、ダビデは神様のために目に見える建物をつくってささげようとしたのですが、神様はダビデの王座を子孫にまでかたく立たせてくださると約束されました。人は神様にわずかなものをささげますが、神様はおそろしいほど大きな家を与えようといま約束しておられるのです。あなたのお家だけではなくあなたの子孫までかたく立てあげてくださるとおおせられました(14 節)。そして、結局聖殿を立とうとするその心が神様の心になかったので、神様は聖殿を彼の息子ソロモン王時代にダビデの心を目に見えるようなものとして成し遂げてくださいました。

愛する信仰の兄弟、姉妹、信仰の家族のみなさん!

時には神様が自分の願いを聞き入れてくださらないともう神様は自分を認めてないのではないか思い込んで落胆してしまう時もあります。それだけではなく自分は神に捨てられたとか、神様にのろわれたと思う傾向もあります。しかしそれはとって間違った考えだと申しました。ただの自分の欲張りではなく、神様が喜ばれることのためであり、もっと多くの人を

仕えるための自分の願いはかなわず、すぐではなくてもかならず、神様の時に神様が成し遂げて下さいます。

みなさん! 歴史上、神の人たちがいただいていた尊い夢が当時はかなえられなかった場合がたくさんあります。13 世紀にアメリカのウィクリフという人が始めて聖書を英語で翻訳しながら聖書の序文(じょぶん)にこのように書きました。

**“この聖書によって国民のために、国民による、国民の政府をかならず立てられる。”**

ウィクリフはこの聖書によってつくられる政府と国家に対するすばらしい夢をもって聖書を翻訳したのです。

ところが 1700 年代にはいって奴隷解放のためのゲスティバーグ戦いの勝利を覚える演説会でアブラハムリンカン大統領が民主主義国家にたいする宣言のときにこのように言いました。“国民のための、国民による、国民の政府がすでに実現しました。”これは 500 年がすぎたころのことでした。ある偉大なことは神様がいますぐにはかなえてくださいませんが、いつかはかならずかなわれます。ですから私たちクリスチャンは神様のためすばらしい夢 VISION を持たなければなりません。神様にむかって清い欲張りをいただくべきだと思います。

愛する信仰の家族のみなさん! 我らの神様は心の願いをかなわれる神様です。今年を後 4 ヶ月残しているこの時点で皆さんは神様に対してどんな夢、望みをもっていますでしょうか。神様の前では大きい夢、小さい夢区別はありません。神様に喜ばされることならすべてが大きくて尊い夢にならざるをえません。

ダビデ王に夢があったため、ソロモンの時につながり、神様の聖殿がついに建てられたことを忘れないでください。

みなさんは我々の教会の子供たちのためにどんな夢をもっているでしょうか。一生涯を終える前にはかならず、見たい、かなえられてほしい夢は何でしょうか。その夢が神様に喜ばされることなら、神様はかならずかなえてくださいます。今自分の夢が、望みが神様の御心であるかどうかこれからよく見極めていくために、もう一度御言葉を愛し、読み始めて下さい。信仰の兄弟、姉妹たちと積極的によく交わって下さい。みなさんにある小さな余裕でもそれを主が喜ばれることのため使って見て下さい。

みなさんはアメリカのマルティンルタルキング牧師(Martin L. King, Jr. 1929~1968)について来たことがあるでしょう。彼はただ平凡な黒人牧師でした。しかし、当時黒人たちが激しい差別待遇されていることを見て一つの夢を抱きました。リンカン大統領が奴隷解放してから 100 年建てられたのにもかかわらず、相変わらず、人として不平等を解決さら、みんな神様によって造られた神の尊い同じ人間として生きることを彼はかならず見たかったのです。そのため、1963 年ワシントンであった平和の行進大会を開き、その時彼が語った演説(えんぜつ)があのような演説でした。そのタイトルが“私にも夢があります! (I Have a Dream)”というものでした。このキング牧師の演説が黒人人権を確保する大きなきっかけとなり、今日真の民主自由国家になったのです。その黒人人権運動のことが世界で高く評価され、マルティンルタルキング牧師は 35 歳の時、最年少ノベル平和賞を受賞し、世界の歴史の中で偉大な人物として、多くの人々の前で神様の栄光をあらわしました。

インドの宣教師であり、インド人の父と呼ばれたウィリアムキャリ(William Carey, 1761~1834)はこういいました。

**“神様のために偉大なことを(夢を)期待せよ。神様のため偉大なことを積極的にためて見なさい。”**

(Expect great things from God, attempt great things for God!) そして、このように一つ付け加えたいです。

**“偉大な神様があなたを通して偉大な御わざを成し遂げてくださる事を期待し続けましょう。”**

< まとめ >

今日我々の神様は私たちを導いてくださいますが、ただ受動的な機械やロボットのように生きるようにはさせず、私たちの心に願いを、夢を入れてくださりそれを実行させてくださる神様であることがわかります。自分が今年あれだけ願ったのに聞き入れてくださらなかった事がありますか。神様に喜ばれることなら時がくるとかならずかなえられることを疑わないでください。歳月は流れています。みなさんと子どもにたいする夢がただよい学校に出て生活の心配なく一生涯おくることでしょうか。我らの人生はたった一度しかない人生です。のこりの今年の残りの間も神様の栄光と神様のきよい御心がみなさんのすばらしい願いを通してかなえられる日々となりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。

アーメン!